

Topics

- 丹羽勝巳主任研究員が、2月15日に(社)建築設備総合協会主催による、「第103回 建築設備総合セミナー『温暖化対策の決め手』/ネットゼロエネルギービル(ZEB)の実現に向けて その3」において「リニューアルのZEB化を目指して」の講演とパネルディスカッション「ZEBは本当に実現できるのか」のパネラーとして提言を行います。
- 2月16日に開催する第38回NSRI都市・環境フォーラムは、村沢 義久氏(東京大学 総長室アドバイザー)によるご講演「電気自動車とソーラー発電による「燃やさない文明」の提言」です。詳細は<http://www.1k.mesh.ne.jp/toshikei/>まで。

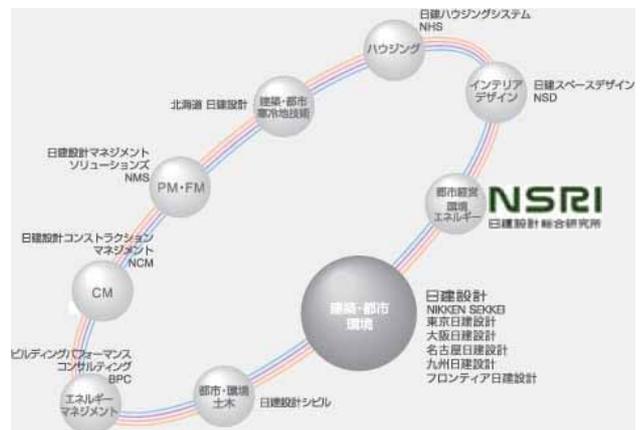
21.1世紀にのぞんで

日建設計総合研究所 取締役副所長
栗山 知広

- 日建設計総合研究所を設立し、業務開始したのが5年前の2006年5月です。20数名の所帯から旅立ち、早いもので5年が経ちました。現在、研究員は42名です。
- 5年の間に、日本で「低炭素」という言葉が定着しました。私から見ると今やCO₂一色と言っても過言ではない時流となりました。5年前は先行きが手探り状態でしたが、2009年初夏に「中期ビジョン」を策定したことから、不透明感が薄れてきています。
- 2011年のNSRIのキーワードは、「融合」、「自立」、「海外」と考えています。その他にいろいろあると思いますが、特にこの3つではないでしょうか。
「融合」は、都市系と環境系との融合です。両方の人材から成っているNSRIの設立趣旨からして当たり前のことで、設立当初からみるとかなり融合してきています。さらに進めて、強みを発揮していきたいと思っています。
「自立」は、自分の足で立っていける集団になることです。日建設計からの独立ではありません。日建グループ(NSG)*の一員であることに変わりはありません。日建設計という圧倒的なブランドの傘の下でNSRIが業務受託できていることは間違いありません。「自立」は、NSRIがNSGのブランド向上に貢献し、NSGから技術的支援を要請されるような体質になりたいという考えです。
「海外」は、中期的な視野から必要です。現状ではNSRIにふさわしい業務がまだまだ日本国内にあると思っています。しかし、近い将来のことを考えると、今から種蒔きしておく必要があります。
- 新所長を迎えて、21.1世紀の2011年をぜひ飛躍の年にしたいと思います。
- 以上の想いで、気になることわざを捜してみました。否定文は、肯定文に直して読んで下さい。
・雨垂れ石をうがつ / 千里の道も一歩から / 頭そるより心をそれ
・痒い所に手が届く / 先んずれば人を制す / 的を射る / 物は試し / 芸は身を助く

- ・蒔かぬ種は生えぬ / 難に臨んで兵を誘る / 習わぬ経は読めぬ / 流れに棹差す
- ・鹿を追うものは山を見ず / 木を見て森を見ず / 仏つくて魂入れず
- ・あごをなげろ / 自慢の知恵は行き止まり / 天狗になる / 喜んで尻餅をつく
- ・人はパンのみにて生きるにあらず / 能ある鷹は爪を隠す / 武士は食わねど高楊枝

- 「近接誤差」という学術用語があります。物事を考える場合に陥りやすい錯誤を指します。直近に起きたことに引きずられてしまって、大局的な判断を見失わないようにという戒めです。トラブルが発生した場合に忘れてはならない言葉です。日常の業務においても大局的で普遍的かどうかを絶えず検証しながら進めたいものです。



*日建グループ

新副所長の紹介

栗山 知広(くりやま ともひろ)



- 1949年 京都府生まれ
 - 1974年 日建設計入社
 - 1998年 設備設計室長
 - 2005年 エネルギー計画室長
 - 2006年 日建設計総合研究所 取締役
 - 2011年 日建設計総合研究所 取締役副所長
- 主に建築設備設計低炭素化計画を担当。



編集後記 先日、子供と雪すべりを楽しみました。初めてのスキー場に大喜びでした。一方で、今年は豪雪による被害も出ていますが、雪を有効に使う手段が、もっと普及すればと思います。(みどりん) 定期配信希望は、webmaster_ri@nikken.co.jpへ

